

紹介患者さん診療・検査事前予約ご利用のご案内

医療機関用 外来診療・検査事前予約 FAX予約

待ち時間を短く患者さんが円滑に診療・検査を受けられるように、病院及び診療所の先生から『事前予約』をお受けしております。

●予約方法

①「紹介患者さん事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域連携室までFAXで送信してください。



②直ちに、予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで送信します。ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡致します。



③患者さんに以下をお渡しください。

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等



④ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受取ったもの

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等

■別に必要なもの

- ・健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券



..... 予約受付先

●京都市立病院地域連携室

TEL (075)311-5311(代) (内線2113)

FAX **(075)311-9862(専用)**

●事前予約医療機関専用電話

(075)311-6348

事前予約受付時間(日曜・祝日を除く)

平 日/8:30~20:00(木曜日は17:00まで)

土曜日/8:30~12:00

FAXは、24時間お受けしています。

地域連携相談業務

平 日/8:30~17:00(月曜日~金曜日)

患者さん用 紹介患者さん事前予約センター 電話予約

先生からの紹介状があれば、患者さんからのお電話で、ご自身のスケジュールに合わせた予約をお取りいただくことができます。

※担当医師の指定、検査の予約はできません。

●予約方法

①お電話をされる前に、患者さんには以下をお手元にご用意いただきます。

- ・事前予約申込票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・診察券 ※初診でもご予約可能です。



②患者さんから『事前予約センター』へお電話いただきます。

専用電話番号 **(075)311-6361**



受付時間/月~金(9:00~17:00)

※土・日・祝・年末年始(12/29~1/3)を除く

●ご予約は前日17:00まで受付しております。

▶電話予約時に確認させていただく内容

- ・患者さんのお名前(漢字・ヨミガナ)
- ・生年月日・性別
- ・ご連絡先(電話番号等)
- ・紹介元医療機関名・予約診療科



③ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受け取ったもの

- ・事前予約受付票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等

■別に必要なもの

- ・健康保険証
- ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
- ・診察券

健康診断や人間ドック、各種検診で「要精密検査」となった場合でも、上記と同様の手続きで事前予約が可能です(初診でも予約可)。ぜひご利用ください。

※ただし、市立病院で人間ドックを受けられた場合は、健診センターでの予約となります。

専用の申込用紙は、京都市立病院のホームページからダウンロードが可能ですので、是非ご利用ください。



地方独立行政法人 京都市立病院機構

京都市立病院

地 域 連 携 室

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-2

TEL 075-311-5311(内線2115) FAX 075-311-9862

事前予約医療機関専用電話(地域連携室直通) 075-311-6348

<https://www.kch-org.jp/>

京都市立病院

連携だより

vol.39
令和3年1月

- 「循環器内科」のご紹介
- 「小児科」のご紹介
- 「栄養科」のご紹介
- 「臨床検査技術科」のご紹介
- 検査事前予約ご利用のご案内

京都市立病院機構理念

京都市立病院機構は

- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって
健康長寿のまちづくりに貢献します

京都市立病院憲章

- 1 質の高い安全な医療を提供するとともに、地域の医療水準の向上に貢献します。
- 2 患者の権利と尊厳を尊重し、心のこもった医療を提供します。
- 3 救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、地域住民の健康の維持・増進に貢献します。
- 4 病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め、健全な病院経営に努めます。
- 5 職員の育成に努め、職員が自信と誇りを持ち、全力で医療に従事できる職場環境を作ります。

Global Vascular Intervention に向けての歩み

循環器内科が行う血管治療の進化

平成26年当院の本館改修に伴い、新しい血管造影装置が導入されました。循環器領域でも新しいデバイスが使用可能となっています。循環器内科スタッフにも新しいスタッフが参加してくれ、態勢が強化されてきました。24時間対応で行なっている冠動脈治療はさらに充実しています。

動脈硬化は全身の血管で進行します。以前は血管外科医や放射線科が行っていた全身の血管の治療も循環器内科領域の治療となってきました。

Global Vascular Interventionに向けて循環器内科が行なっている当院の治療と新しいデバイスを紹介します。

循環器内科部長 岡田 隆

緊急のカテーテル治療は医局員の連帯により24時間体制で行なっています。複雑な手技は新しいデバイスの導入だけでなくそれを的確に使いこなすことが必要です。以下に列記する様々な治療は新しいデバイスをも中堅以上の医局員が的確に実施しています。

循環器内科医局員

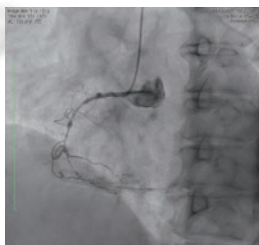
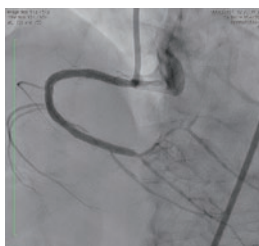


1) Bi-directional approach

慢性完全閉塞病変に対して、順行性の貫通だけでは成功率が低いため、側副血行路を介して血行再建を完遂する手技です。Corsair XS-proなどのマイクロカテーテルを使用して成功率を高めています。

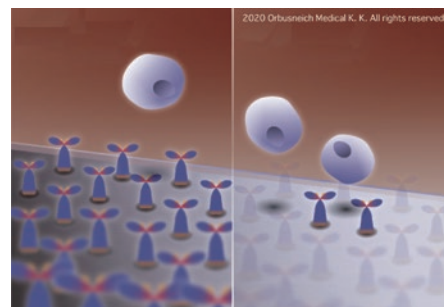


進化したマイクロカテーテル



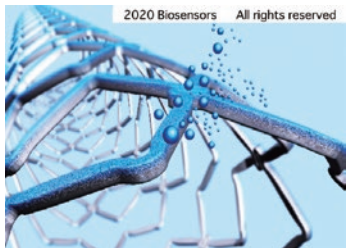
2) 早期に内膜化ができる ステント

ステントストラット全面にコーティングされた抗CD34抗体が損傷した血管内皮の修復を促進する血管内皮前駆細胞(EPC)を捕獲します。



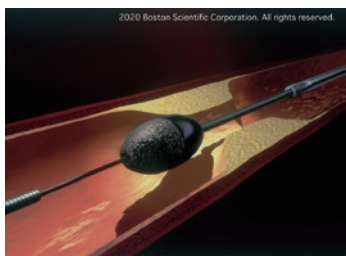
3) ポリマーを使わない 薬剤溶出型ステント

薬剤溶出型ステントは再狭窄率を下げるものの、ステント血栓症について議論されています。初期の薬剤溶出型ステントでは薬剤放出のためのポリマーが慢性炎症をきたすことが指摘されていました。ポリマーの無い薬剤溶出型ステントは当院にも導入されています。早期に抗血小板製剤の減量が可能です。



4) Rotablator

Rotablatorは高度石灰化病変でも治療可能なデバイスです。2020年6月から当院でもRotablatorによる治療が可能となりました。



5) Diamond Back 360

アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテルです。ダイヤモンドコーティングされたクラウンが遠心力で軌道回転して重度石灰化病変を除去できます。2021年1月に導入予定です。

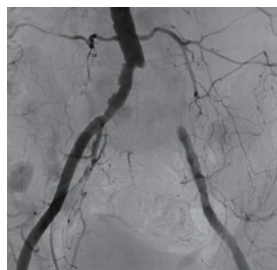


6) 血管内超音波カテーテルを駆使した末梢動脈カテーテル治療

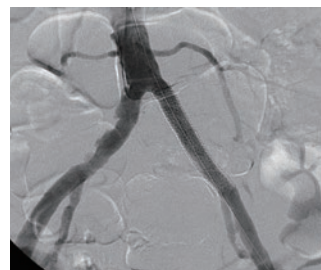
治療手技の中で血管内超音波検査を行い、カテーテルの位置を正確に把握できます。血管破裂が致命的な合併症に至るような病変部位であっても血管内超音波検査で安全に手技を完遂できます。



血管内超音波カテーテル



閉塞した左総腸骨動脈



ステント留置による血流確保

7) 腎動脈ステント

腎動脈狭窄に対してステント留置を行なっています。

血管内超音波の導入により的確な判断ができるようになり、造影剤使用量を減らせています。腎臓に負担の少ない手技を目指しています。



血管治療と病診連携

多くのデバイス導入とそれを適切に使っていく技術の獲得により、より複雑な病変をより安全に実施できるようになりました。血管治療は手技の成功で完結するものではなく、それぞれに内服治療の継続を要します。

カテーテル治療だけでは予後の改善につながらず、エビデンスに基づいた適応判断と至適な内科的治療 Optimal Medical Therapy を伴って初めて予後の改

善に貢献できます。Global Vascular Intervention は total managementの一部です。

この10年を振り返って、循環器内科の病診連携は進んできていると思います。当院には多くの急性期の患者が搬送されます。引き続き逆紹介を積極的に行っていきます。信頼による紹介と共に発展していく循環器内科を目指します。

「未来を担う子どもたちのために」

「小児科」のご紹介

小児科部長
岡野 創造



当院小児科では、12人の小児科医が協力し合って救急を含めたすべての分野の小児疾患を診療しています。

令和元年には、「こども患者さんの権利」を策定し、子ども達にもわかりやすい文章で、当院での治療を受けるにあたり、子どものもつ権利を外来や入院病棟に明示しこども達に説明しています。プレパレーション(子どもが病気や入院によって引き起こされるさまざまな心理的混乱に準備や配慮をすることによってその悪影響を和らげ、子どもや親の対処能力を引き出すような環境を整えること)にも力を注いでいます。

当院小児科が対応している各分野について紹介します。

血液・腫瘍

当院は小児血液がん研究グループ(JCCG)に参加し、また小児がん拠点病院診療連携病院に指定されており、白血病をはじめとする血液疾患や小児癌を診療しています。平成5年から造血幹細胞移植を開始し、すでに100例以上に行っています。小児科病棟内にある2つの無菌室を活用して治療しています。

神 経

てんかん患者約500名を含め、重症心身障がい児を含めた脳性麻痺、熱性けいれんを頻回に起こす児、発達の遅れ、脳炎、髄膜炎、神経皮膚症候群、脊髄髄膜瘤や脳腫瘍などの術後患者も診療しています。

注意欠如多動性障害や自閉スペクトラム症などの発達障害の診療も、小児科専属の臨床心理士と協力しながら行っています。新版K式2001・WISC-IVなどの発達テストやカウンセリングも可能です。

腎 臓

腎炎、ネフローゼ症候群、先天性の尿路奇形などを診療しています。必要に応じて腎生検を行い、腎疾患の診断・治療に役立てています。

小児科では珍しい「夜尿症」の専門外来も行っています。

代謝・内分泌

甲状腺疾患、低身長、糖尿病、先天性代謝異常などの疾患を治療しています。1型糖尿病にはインスリンポンプ療法も導入しています。

新生児

早産児をはじめ新生児仮死や感染症などの病的新生児を診療しています。京都府新生児搬送システムにおける病的新生児受け入れ病院になっていますが、システムを介さない近隣の産科施設からの直接の新生児搬送にも対応しています。



アレルギー

喘息や食物アレルギーの診療を行っています。食物アレルギーに対して、日帰り入院で年間140回の食物負荷試験を行っています。緩徐な経口免疫療法も行っています。

循環器 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

川崎病や先天性心疾患を診療しています。手術などより専門的な治療については、大学病院などの小児循環器病院の専門の医療機関と連携しています。

感染症

「渡航外来」にて海外渡航に備えた予防接種を行っています。結核や帰国者の特殊な感染症にも対応しています。新型コロナウイルス感染症の入院治療も行っています。

[illegible]

24時間対応で小児科医師が診療しています。

小兒外科疾患 ●●●●●●●●●●●●●●●●

これまで小児外科医師は週に1～2回勤務の非常勤でしたが、令和3年4月より常勤となりますので、幅広く小児外科疾患に対応できるようになります。

予防接種 ●●●●●●●●●●●●●●●●

アレルギーや脳性麻痺、頻回にけいれんを起こす児など、他院では接種しにくい患者にも絶対的禁忌でない限り、積極的に接種しています。造血幹細胞移植後の患者さんにも対応しています。

[illegible]

早産児や病的新生児のフォローアップだけでなく、育児支援、育児相談、栄養指導にも応じています。

心身症 ● ● ● ● ● ●

小児科専属の臨床心理士が
おり、発達テストやカウンセ
リングを行っています。

[illegible]

当院には小児だけの病棟があります。院内学級「わかば」で長期入院の児も学ぶことができます。

またホスピタル・プレイ・スペシャリストの資格を持った医療保育専門士がおり、入院中の子ども達に、プレパレーション(前述)やディストラクション(処置中に気を紛らわせる遊び)などを通じて、少しでも入院の苦痛を和らげるためのやさしい環境作りをしています。



最後に

我々京都市立病院の小児科医師は、疾患や検査の異常値だけにとらわれるのではなく、子どもや家族がどうすれば幸せになれるかという視点で診療しています。これからよりよい小児医療を提供できるようにさらに努力していきます。地域の先生方、どうぞお気軽に患者さんをご紹介ください。



カンファレンスの様子

栄養指導は京都市立病院にお任せください！

患者さんの食事療養にお困りではありませんか？当院では管理栄養士による栄養指導を積極的に行っています。地域の医療機関やクリニック等で治療されている患者さんについては、地域連携室を通して栄養指導指示書をいただいた上で栄養指導を実施しています。

アピールポイント1

栄養指導室で管理栄養士と個別に相談できます。
個室でプライバシーに配慮しています。



アピールポイント2

手作りの資料やフードモデル等を活用して
分かりやすい指導を心がけています。



実物大のフードモデルは
患者さんに好評です。

アピールポイント3

当院の管理栄養士は糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、
がん病態栄養専門管理栄養士、NST専門療法士など専門資格を取
得しており、様々な病態に対応できます。

糖尿病、心臓病、腎臓病だけでなく、
「がん」「低栄養」「摂食嚥下障害」等の
病態にも対応可能です。

定期的な栄養指導が食事療養の
モチベーション維持につながった好例です。／

【地域からの紹介患者さんの実例】 #糖尿病、高血圧、脂質異常症

■初回指導 BMI 27.5 HbA1c 10.4

Sさん：あれもこれもダメって言われると思ったけど安心しました。
これからも栄養指導受けたいです。

■3か月後 BMI 27.2 HbA1c 7.8

Sさん：運動もがんばっています。つい食べ過ぎますが、ここに来ると気が引き締まります。

■6か月後 BMI 26.7 HbA1c 6.0

Sさん：食事記録を習慣化できていて、食べ過ぎの抑制につながっています。
→その後も定期的に栄養指導に来院、検査データ等も良好に推移しています。

※なお、栄養指導報告書を毎回紹介元の医療機関に返送しています。



外来栄養指導の概要

【所要時間】20～30分程度

【予約枠】午前 9:00 から 11:30 / 午後 1:00 から 4:00

「臨床検査技術科」のご紹介

臨床検査技術科は、病院職員27名と検体検査部門の委託職員17名で構成され、専門的知識と技術をもって安全で質の高い検査情報を迅速に提供しています。

生理検査部門、病理検査部門、輸血用血液製剤管理部門、感染管理部門、検体検査部門（業務委託）に分かれて業務を行っています。

各分野において認定資格の取得にも力を入れ、より専門的な知識と技術の向上に取り組みチーム医療の一員としても貢献できるよう努めています。

今回は主に生理検査部門について紹介したいと思います。

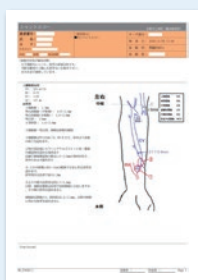
超音波検査では認定超音波検査士（循環器領域、消化器領域、血管領域、体表臓器領域）や血管診療技師認定の技師を中心として検査を行っています。それぞれの領域で各診療科と定期的にカンファレンスを行い迅速な検査結果の報告や情報共有、経過観察などを行い、さらなる専門的な知識や技術の向上に努めています。

今年度から血管領域において、腎臓内科とともにシャントエコー（バスキュラーアクセス）の検査をはじめました。透析患者さんのシャントマップを作成し透析の導入や、経過観察を行っています。

チーム医療に参画する取り組みとして、臨床検査技師の救急室配置による支援やコメディカル外来（ペースメーカー外来）の業務支援をはじめました。



心臓超音波検査

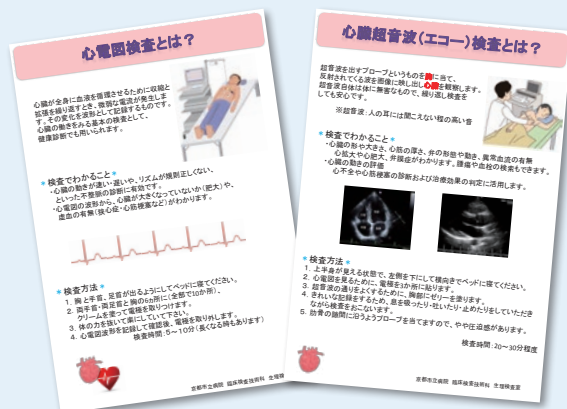


シャントエコーレポート例



内シャントエコー検査

また患者さんへのサービス向上を目的に「わかりやすい検査説明」として検査説明書の作成や外国の方のための英語の指示用のカードなども作成し患者さんが安心して検査を受けていただけるように努めています。



地域の先生方におかれましては超音波検査をはじめとした生理検査分野の12項目で検査をご依頼いただける体制を整えております。

運動負荷検査は循環器医師と共に万全の体制で検査を実施しています。脳波検査の前には神経内科医師による問診を行い安心して検査を受けていただけるよう取り組んでいます。

今後も精度の高い検査結果を提供し地域の先生方にも貢献できるよう取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご依頼いただける検査項目

超音波検査：

心臓（小児除く）、腹部、頸部、
血管（頸動脈、下肢動脈、下肢静脈、腎動脈）

生理検査：

運動負荷検査【トレッドミル、エルゴメーター】、
血圧脈波、ホルター心電図、細胞外液量測定、
呼吸機能検査（今年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い原則中止しております）、
脳波（小児除く）、
誘発脳波【体性感覚、聴覚、視覚】、
神経伝導速度